

J-STAGE NEWS

J-STAGE

J-STAGEニュース

No.25

ISSN 1346-1990

2010年9月30日発行

独立行政法人
科学技術振興機構

電子ジャーナルの最新情報をおとどけるJ-STAGE機関紙

今号の記事：

- WPRIM (Western Pacific Region Index Medicus) 紹介
- 事例紹介：社団法人電気学会様 — 論文誌の電子ジャーナル化と掲載料の値下げ —
- シリーズ学会訪問 ～J-STAGE 利用学協会様の声～ [社団法人日本農村医学会様]
- J-STAGE の Web-API 機能をリリースします
- シリーズ技術紹介—第4回—”HTML5”とは？



WPRIM(Western Pacific Region Index Medicus)紹介

東京大学大学院薬学系研究科医薬政策学特任教授(WPRIMJ 委員長) 津谷喜一郎 先生

2004年にWHOによるThe Global Health Library (GHL)プロジェクトがスタートした。信頼できる医学情報へのアクセスを世界的に高めることを目的とする。途上国の研究者が世界的な医学雑誌のオンライン版に無料でアクセスできるシステムである“HINARI”もその一つで、John Wiley & Sons や Elsevier などの世界的な出版社の協力を得て運営されている。

もう一つが、Global Index Medicus (GIM)である。米国国立医学図書館(NLM)によるPubMed はよく知られ、大変よく出来たシステムであるが、いくらかの欠点もある。その収載雑誌約5,200のうち半分以上が米国の雑誌である。グローバルヘルスの面から言うと弱い。また米国政府の世界戦略が反映されており、現在でもキューバやベトナムの雑誌は収載されていない。そこで、WHO では local knowledge を含めグローバルにバイアスのないデータベース Global Index Medicus (GIM)をつくることになった。

世界に6つあるWHO地域事務局がそれぞれ作りそれらを統合する形式がとられた。日本はマニラにオフィスのあるWHO西太平洋地域事務局(WPRO)の管轄下にある。Western Pacific Regional Index Medicus (WPRIM)を作成・運営するためのWPRO主催の会議が、2005年のクアラルンプール以降、毎年各国で1回ないし2回開催されてきた。2007年の東京会議では雑誌の選択基準が作成された。わたしは以前、WHOに勤務した経験もあり、2006年11月に設立されたWPRIM日本国内委員会(WPRIMJ, <http://wprimj.umin.jp/>)の委員長を務めている。この間、科学技術振興機構(JST)や国立情報学研究所の支援を受けてきた。

2010年9月現在、WPRIM(<http://www.wprim.org/>)には、9カ国から416種の雑誌が含まれる。日本からの雑誌の選択にあたっては、MEDLINE収載雑誌は除く、online versionが読める、臨床系の雑誌はCONSORT声明を投稿規程にもつ、など追加の条件があり、J-STAGEからは現在、日本農村医学雑誌と *Journal of Rural Medicine* の2誌が収載されている。今後増えていく予定である。

WPRIMは各国の支援によって運営されている。本年5月にはサーバーがマニラから北京の中国医学科学院医学信息研究所に移行されより安定したサービスがなされるようになった。その折の会議には技術的経験を積んだJSTスタッフの参加もあり、感謝している。

WPRIMの活動の中から雑誌そのものの質を向上させるべきだという考えが生じ、2008年にアジア太平洋医学雑誌編集者会議(APAME)が設立された。このメンバーとして日本医学雑誌編集者会議(JAMJE)も設立され、日本医学会の配下に属するという位置づけとなった。現在、ラオスやカンボジアには医学雑誌が存在しない。APAMEとしてこうした国への支援も行っている。



〔事例紹介〕 論文誌の電子ジャーナル化と掲載料の値下げ

〔社団法人電気学会様の場合〕

“論文誌を電子ジャーナル化し、削減された経費を論文掲載料の値下げとして会員に還元する”という大方針を打ち出された電気学会様を訪問し、本方針決定へ至った経緯と見込まれる効果、および問題点などを取材しました。ここでは、編修担当副会長の宮道壽一様(宇都宮大学)、編修理事の林洋一様(青山学院大学)、学会事務局編修出版課の槌屋孝司様、藤本寛子様にお伺いした内容をご紹介します。



—この方針へ至った経緯など

平成 19 年に電気学会の編修方針等を検討する編修方針アドホック委員会から本方針の方向性が示されました。

それから今日まで、J-STAGE 上の論文の利用に支障がないよう環境作りのための助走期間として、認証・課金システムの導入、冊子体と電子ジャーナル版の同時公開開始(平成 19 年 9 月)、機関利用サービスの導入(平成 20 年 6 月)などを実施しました。比較的ゆっくと進めてきましたが、この間に会員に WEB 上で ID とパスワードを用いて論文を閲覧するという環境に慣れてもらう意図もありました。

—見込まれる効果はどのようなものですか

これまでは学会誌とともに論文誌冊子体を会員に送付していました。論文誌冊子体がなくなることで印刷代、用紙代、配送代を大きく削減できる予定です。



編修出版課 藤本様 副会長 宮道様 編修理事 林様 編修出版課 槌屋様

—論文誌冊子体を原則中止して削減した経費を、掲載料の値下げに還元するとしています

以前から電気学会の「掲載別刷代」が高いとの声がありました。また、紙媒体の論文別刷が必要ではない人も増えてきています。論文誌の電子ジャーナル化によって別刷代と掲載料を分離して、さらに一律での論文別刷の製作を中止し、これらにより削減される冊子体関連の経費を充当して、論文誌掲載料を現行の料金の約 65%に引き下げることとしました。投稿者の負担を軽減し、論文投稿が活発になることによって論文誌がさらに充実し、研究が発展することを期待しています。

—どうしても、論文誌冊子体や論文別刷が欲しいとの要望には

著作権法に違反しない範囲の利用であれば、電子ジャーナルの PDF ファイルを印刷して利用していただけますが、そうでない場合や従来のような紙媒体が必要な方にはオンデマンド出版で製作して要望に応えます。

—問題点、要望について

オンデマンド出版になると、これまでのような取次店を経由した論文誌冊子体の市場への流通が難しくなります。現在、取次店経由で冊子体を購読してくださっている方をどのように維持するかが重要ですが、その対策のひとつが電子ジャーナルの利用サービスを充実させることです。同時アクセス数を ID や IP アドレスごとに設定できるようになると様々な提供方法を講じることができます。また、記事毎に細かく価格が設定でき、その料金が抄録画面等に明示されるとより良いと思います。J-STAGE3 では実現できることを期待しています。

—今後の予定について

学会誌についてはこれまで通り冊子体で配布します。論文誌については、今回の電子ジャーナル化の結果を検証、評価した上で、問題点があれば見直したいと考えています。

—JST へのご意見など

JST が本年 6 月より試行版を提供している Web-API を利用した検索サービスを電気学会のホームページ上に構築しました。間もなくリリース予定ですが、電子ジャーナルの利便性をより感じることができるツールとして会員に高く評価されると考えています。さらに使いやすい環境の整備を今後も期待します。また、JST が主催する著作権等に関する J-STAGE セミナーは非常にありがたく、感謝しています。今後も是非、続けていただきたいと思います。

—ご協力ありがとうございました。

〔シリーズ学会訪問〕～J-STAGE 利用学協会様の声～

〔社団法人日本農村医学会〕

日本農村医学会様は昭和27年の発足で、英文誌「Journal of Rural Medicine (JRM)」誌は2005年からJ-STAGEで公開されています。本誌は、日本農村医学会の和文誌と共に、WHOのWPRIM(西太平洋地域医学情報データベース)にも収録され、5月よりJ-STAGEへのリンクが実現しています。

英文誌JRMの編集委員長である総合病院取手協同病院院長の新谷周三先生に、お話を伺いました。



—日本農村医学会様をご紹介いただけますか

昭和22年、第1回長野県農村医学研究会が若月俊一先生のもとで開催され、その後、昭和26年に藤井敬三先生により北海道農村医学会が、立身政一先生により秋田県農村医学会が創立されました。この3先生が中心となって、昭和27年に日本農村医学会の創立総会が、長野県で開催され今日に至っております。日本農村医学会の活動の原点は、戦後の農村における健康増進と保健医療活動にあります。農村特有の過重労働や農薬中毒/農機具災害などから、現在では、地域医療/在宅医療/生活習慣病/環境医学まで幅広いテーマの研究を進めています。

—「Journal of Rural Medicine (JRM)」誌の特徴は

本誌は、農村における農民の健康増進、環境衛生、農薬問題、地域医療、高齢化問題等、農村特有の医学に関わる情報と、それに関連する臨床医学を幅広く扱っています。

—「Journal of Rural Medicine (JRM)」誌のWPRIMへの収録について

日本農村医学会のプレゼンスを上げるために、英文誌の発刊が必要と考え、2005年に英文誌(JRM)を創刊し、編集に携わるようになりました。2008年に第1回日本医学雑誌編集者会議シンポジウムが開催され、日本医学会加盟の158誌の編集者が、始めて一同に会しました。この席上、日本からのWPRIMへの掲載推薦誌として、「Journal of Rural Medicine」が選ばれました訳ですが、この背景は、JRM投稿規程に、Uniform Requirementsへの言及があること、Consort Statementを求めていることなどが、推薦された理由と聞いています。

—「Journal of Rural Medicine (JRM)」誌の5巻1号(2010年6月号)は、国際地域医療保健学会との合併号となっていますが

国際地域医療保健学会(International Association of Rural Health and Medicine: IARM)は、1961年フランスで創設され、当初の名称は「国際農業医学会(IAAM)」でしたが、1978年に「国際農村医学会(IAAMRH)」と改称され、2006年6月のイタリア学会において、ハンガリーに置かれていた事務局が、日本(日本農村医学会事務局)へ移転することが決定されました。国際地域医療保健学会は、農業医学ならびに農村保健に職業として携わる人たちの自主独立組織であり、WHO, ILO, FAO, UNESCOなどと協力しながら、「21世紀にすべての人に健康を」とするWHOが掲げる目的を支持していくものです。2009年から、日本農村医学会英文誌JRMと国際地域医療保健学会の機関誌が統合され、誌名は新しい「Journal of Rural Medicine(JRM)」とすることが決定されました。

—J-STAGEで公開されていかがでしょうか。また、今後のJ-STAGEに期待されることは？

フルペーパーで公開されることは非常に良いことです。世界中からアクセスがあり、プレゼンスが向上できたと感じています。海外からの投稿も増えてきています。

今後、電子投稿審査システムの利用も考えており、J-STAGE3には使い勝手の良い投稿システムとなることを期待しています。

—ありがとうございました。J-STAGE3については次号にて詳細をご紹介いたします。平成23年度中のサービス開始に向け、JSTスタッフ一同、頑張ってお参りますので今後ともよろしくお願いたします。



総合病院 取手協同病院院長
新谷周三 先生
JRM Editor-in-Chief

J-STAGEのWeb-API機能をリリースします

Web-API(アプリケーション・プログラミング・インタフェース)とは、データベースなどのサービス機能の一部を、Webサーバ上に準備されたプログラムを使って利用できるようにするもので、今回リリースするAPIを利用すると、JSTのページへブラウザでアクセスせずに、J-STAGEやJournal@rchiveの検索・結果取得ができるようになります。また、CiNii、PORTAなど、他のDBが提供しているAPI機能と組み合わせることにより、複数DBの統合検索機能の開発が可能になります。

今回提供する機能は

1. 資料名検索機能

J-STAGEとJournal@rchiveに搭載されている資料を、発行年、資料名のキーワード、ISSN等から検索することができます。また、前身誌、後継誌のデータも同時に取得することができます。

2. 巻号検索機能

資料が1つに特定できる場合に、J-STAGEとJournal@rchiveに収録されている巻号の情報を取得できます。

3. 記事検索機能

資料名、記事のタイトル、著者、キーワードなどから、J-STAGEとJournal@rchiveに搭載されている記事を検索できます。

・いずれの機能も、同じ検索式でJ-STAGEとJournal@rchiveを同時に検索することが可能です。

・検索結果はXML形式(ATOMフォーマット)で送信されます。

10月からリリースを開始し、J-STAGEのHPに利用方法などを掲載する予定です。皆様のご利用をお待ちしております。



記事検索例

シリーズ技術紹介 第5回 <“HTML5”とは?>

このコーナーでは、電子ジャーナル出版に関連する新しい技術や用語の解説を紹介しております。

第5回は、HTML5です。Web2.0によりインターネットサービスが大きく進展したように、HTML5によりWebサイトの表現力が格段に良くなることが期待されています。HTML5(エイチティーエムエル・ファイブ)とは第五世代のHTMLです。HTML5は、W3C(World Wide Web Consortium)より2008年1月22日にドラフト(草案)が発表され、2012年3月頃に正式に勧告される予定となっています。皆さんご存じと思いますが、HTML(HyperText Markup Language)とはウェブ上のドキュメントを記述するための言語です。ウェブの重要な技術の一つで、HTMLで記述されたドキュメントは、画像・リスト・表などの高度な表現力を持ち、他のドキュメントへのリンクを設定できます。

Internet Explorer において、「表示」メニューの「ソース」を選択すると、表示されているページのHTMLを実際に見ることが出来ます。それぞれの表示される要素は開始タグ、内容、終了タグの3つで構成されており、開始タグ・終了タグはそれぞれ<要素名>、</要素名>のように表現されています。

HTML5はプラグインとして提供されているリッチインターネットアプリケーションのプラットフォーム(JavaFX、Adobe Flash、Silverlight等)を置き換えることを標榜しており、ウェブアプリケーションのプラットフォームとしての機能やマルチメディア要素が実装されています。新しい仕様として、マルチメディアのためのaudio要素やvideo要素や2次元ビットマップ画像のcanvas要素も追加されています。さらに、新しいAPIとして、次のようなものが追加されています。ビデオやオーディオの再生、オフライン状態での動作、画像ファイルのドラッグ&ドロップ、戻るボタンなどです。これらの新しい機能により、格段に向上した表現力豊かなWebサイトが登場してくると思われます。なお、2008年以降に発表されたウェブブラウザの多くはHTML5に段階的に対応しています。具体的には、Opera 10.5、Internet Explorer 9、Google Chrome 3.0以降、Safari 3.1以降、Firefox 3.5以降などです。J-STAGE3ではHTML5関連の動きに注目しています。

編集後記

♪今年の夏は本当に暑かったですね！これを書いている今日は、珍しく過ごしやすいたくやな気温ですが、明日からはまた真夏日に逆戻り・・・暑い夏は現在進行形のような感じです。さて、平成24年度リリースにむけて、J-STAGE3の基本設計も夏の暑さに負けず熱く進んで佳境に入りつつあります。発行者、ユーザ、誰にとっても使いやすいシステムを目指して邁進してまいりますので、引き続き参加学協会、出版社の皆様、図書館関係等ユーザの皆様には今後ともご指導・ご支援を賜りたくよろしくお願い申し上げます。(ET)

J-STAGE ニュース No. 25 2010年9月30日

編集:独立行政法人 科学技術振興機構 (JST)
イノベーション推進本部 研究基盤情報部 電子ジャーナル担当
発行人 研究基盤情報部長 大倉 克美
〒102-0081 東京都千代田区四番町 5-3 サイエンスプラザ
電話 03-5214-8837(ダイヤルイン)
E-MAIL contact@jstage.jst.go.jp

J-STAGE <http://www.jstage.jst.go.jp/>

J-STAGE および J-STAGE ニュースに関するご意見・ご質問をお待ちしております。 JST 研究基盤情報部 電子ジャーナル担当 (contact@jstage.jst.go.jp)